

10月9日 4年生 高齢者疑似体験

社会福祉協議会の方々に御協力いただき、体育館で「80歳の高齢者」になったつもりで3つの体験をしました。貴重な機会をありがとうございました。

体験する内容は、次の3つです。①手紙を読む。自分の名前を書く。②お金を財布から出して、貯金箱に入れる。貯金箱から出して財布に戻す。③ステージに上り、くつ下の脱ぎ履きをする。

高齢者に近づくために、いろいろ装備をつけました。ベストを着て、ひざとひじにサポーターをまき、手首と足首におもりを巻きつけます。ベストのポケットにもおもりを入れました。目にはゴーグルをつけ、耳にはヘッドフォンを、手には軍手をはめました。杖を持って、体験をしました。

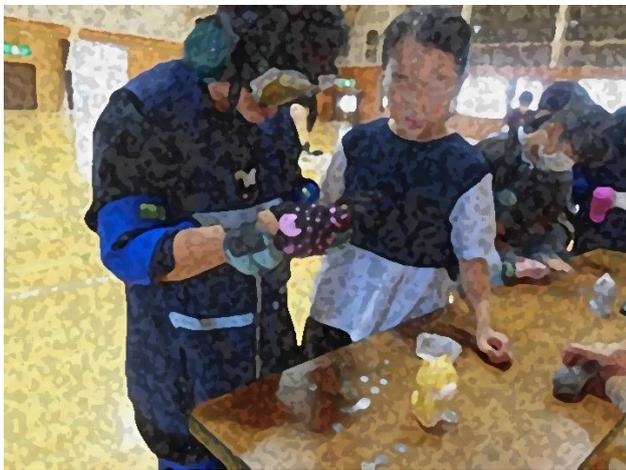
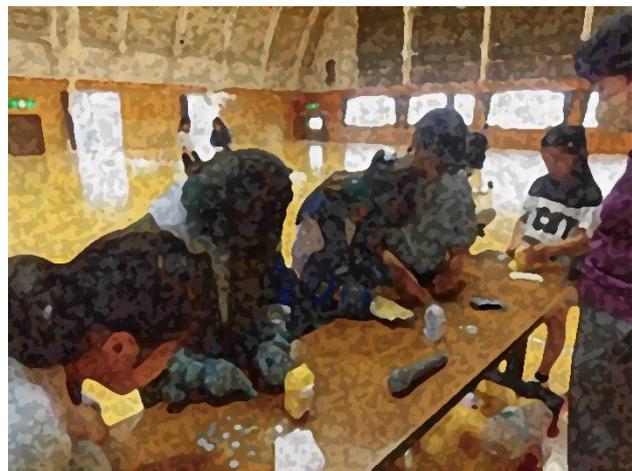
姿勢が前かがみになり、視界も悪くなり、首も重そうでした。一つ一つの体験がぎこちなく、ゆっくりしている感じでした。サポートする側の子も、体を支えたり、声をかけたりしながら真剣でした。

4年1組の様子





4年2組の様子





子どもたちに体験した感想を聞いてみました。

「肩や首が疲れた。おもりで重かったから。」「視界が悪く、周りや手元の文字が見えにくかった。」

「高齢の方は、いつもこのような感じで生活していることがわかりました。」「この体験を通して、サポートすることも真剣になった。」「わかりやすく声をかけてあげるようになった。」のような感想を語ってくれました。